

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)		一般レストラン（統括）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの大型10連休があったことにより、消費マインドが向上し、外食頻度も増えている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・8月の閉店を発表後、来客数が増加している。会員の積立商品券の使用が急激に増えている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・好天と気温上昇が続いており、人の動きが活発である。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・未曾有の大型連休と改元のお祝いムードで、消費活動も活発であった。前年の来客数を大幅に上回る。
		衣料品専門店（店舗運営）	販売量の動き	・新商品の入荷が続き、購買点数が前年同月比で10%アップしている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・消費税の引上げ前にて、エアコンの販売量が前年比120%を超えている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新型車の発売や独自イベントなどで、特に週末の来客数が増えてきている。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・5月の販売量は前年同月比130%の見込みである。3か月前の販売量は前年同月比103%で、上向きである。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・大型連休の影響もあり、来客数と共に売上金額も伸びている。
		旅行代理店（所長）	販売量の動き	・連休も終わり一段落の様子である。東京オリンピックのチケット予約が始まり、今後に期待している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークは過去最高の観光客数であり、観光地はどこも最高の人出で、タクシーは忙しかった。連休後一時は落ち込んだが、週末を中心に好調で、全体として良い。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・来月からの新料金プラン発表に伴う、プラン見直しの客がかなり増えている。また、プランの見直しから機種変更の客も増えており、販売増につながっている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に契約数が前年同期比を上回っており、好調である。特に新規契約が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅展示会の来場者数の増加がみられる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・帰省客や旅行客等で、5月の大型連休の商店街への来客数はほぼほぼ増加しているようだが、近隣の駐車場利用は少なかった。アーケード街の来訪者も飲食店利用が多く、衣料関係は品ぞろえの面から、大手デパートやショッピングセンターへの集客が顕著な様子である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが10連休ということで来客数も多く、また、ゴールデンウィーク明けは外国人観光客が多い。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・買い控えの傾向がみられ、購買点数が少ない状態が続いている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・初の10連休となったゴールデンウィークは期待したほどの集客にはつながらず、1～6日までの6日間の前年同日比では前年を僅かに上回る程度で推移した。月全体では店頭はほぼ前年並みで推移したが、外商関連は大型催事の開催が6月以降にスライドしたため前年を下回る見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・改元によるお祝いムードのなか、ゴールデンウィークの10連休は帰省客を中心に連日にぎわいをみせた。気温上昇に伴い、初夏物ファッション商材の動きは順調であるが、その他商材は前半の反動で苦戦している。
		百貨店（営業企画）	お客様の様子	・10連休があり観光客の増加で来客数は前年より増加したが、それ以外の客の来店が少ないためか主力のファッションアイテムの売上が伸び悩んでいる。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合他社のチラシ販促の本数が増えており、ポイント付与などの販促内容も強化の様子がみられる。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、大きな来客数の増加はみられないが、前年と比較すると伸びている。	

スーパー（総務担当）	販売量の動き	・5月上旬の連休中は改元もあり来客数も増加していたが、その後は減少し、さらに、買上点数が減少した。10連休中に行楽のため出費が増え、家計を引き締めているようである。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・5月は10連休があり、多くの人が休日となり多少売上増となったものの、全体としての販売量は前年並みで推移している。状況は変わらない。
スーパー（店舗管理）	販売量の動き	・販促強化によって来客数は前年並みである。1品単価の上昇もあり売上は前年並みに推移しているものの、件数が上がってこないため、景気が良くなっているとはみていない。
スーパー（統括）	販売量の動き	・取引点数の伸び悩みが継続している。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・季節商材も例年並みである。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・大型連休後半は天候が不順なこともあり、結果としてトータル売上のアップにはつながらず、人件費だけが増加している。
自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・大型連休は例年どおり休み前の需要が多かったが、連休に入ると集客、売上共に前年からダウンした。業種によって違うだろうが、余りにも長い連休は従業員の負担が大きい。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの最中も余り良くなかったし、ゴールデンウィークが明けても余り良くない。いつものように暇である。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・改元に伴う10連休により休日数が増えたため、前年比を超える来客数で推移している。数値として悪くはないが、長期連休による来店分散及び、店舗入替えによる休業期間が発生している区画もあるため、曜日まわりどおりの伸びには至っていない状況である。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・10連休の後も、令和記念と銘打った団体旅行の集客が好調で、インバウンド客と合わせて順調に集客できている。
通信会社（役員）	販売量の動き	・5月は10連休があり、契約獲得に向けた営業活動の日数に制約があったが、獲得件数に大きな増減はなく、例月並みの実績となっている。
テーマパーク（役員）	来客数の動き	・5月は前年同月比でも、10連休効果もあり、期間中は大変来客数が伸びた。逆に連休明けは土日も含めて客の動きが大変鈍くなり、通算してみると前年並みに推移しているようである。
その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・子供から高齢者を含む大人まで、通常会員の入会が非常に少ない。
美容室（経営者）	来客数の動き	・5月よりカット料金を15年ぶりに500円値上げしたが、今のところ客は受け入れているようである。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・一戸建て住宅の需要は落ち着いてきたが、リフォーム需要については消費税の引上げ前に終わらせたいと思うユーザーが動いている。もうしばらく忙しい状況が続くようである。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・個人消費の強さはないが、消費税の引上げの影響での受注が多い。
商店街（代表者）	来客数の動き	・10連休のゴールデンウィークということで期待していたが、前半は人出もまばらで、後半に少しにぎわいを感じたが、期待以上の売上は見込めなかった。飲食店はまだ活気があったが、その他の業種への波及効果はなかったようである。
一般小売店〔事務用品〕（店員）	来客数の動き	・大型連休中の店頭売上の増加を見込んでいたが、来客数が少なく売上が悪い状態である。

	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・来客数の拡大を目指し、DMやチラシといった各種アプローチを増幅させた。さらに、ポイントアップや割引などの策を講じているが、いずれの反応も弱く来客数の増加につながらない。購入は更に弱く、見物やいるだけの客も多数いる。来店動機は必要な物のみになっており、食品催事などで集客があっても、ついで買いは少ない。地域特性か、来店も週末に集中している。それも日曜のみで土曜の来客数が減少中である。ゴールデンウィーク後の影響か土曜勤務が増加したとの声があり、完全週休2日が少ない影響が出ている。	
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・最低賃金の上昇により店舗のシフト人員の確保には限りがある。本部の方針が商品量を増やすことを前面に出しているなかで、スタッフの意識を接客向上につなげるのは難しく、当たり前接客をそつなくこなすというのが店舗の状況である。以前は厳しくしていた、おもてなし等の売上向上につながる行動も限定され、店舗の雰囲気は以前ほど活気あふれるものではなくなりつつある。売上は前年割れを起こしている。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今年は初めての長期の連休で、連休中は帰省している客の来店もあり来客数が増えたが、全体として来客数は減っている。	
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・今月も販売量が全く増えない。消費税の引上げでの駆け込み需要を期待してイベント等を開催しても客の買い控えが多いようである。	
	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・大型連休の少し前から来客数の動きが鈍化しており、買い控えの雰囲気が感じられる。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・10連休期間中は例年の110%ほどの集客があったが、7日以降は散々な集客となり、5月のトータルでは例年より若干の集客減となる。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・10連休中は宿泊は良かったが、5月累計では前年並みになり、連休前の落ち込みはカバーできなかった。宴会件数は、連休のため減少した。レストラン売上はほぼ前年並みだが、単価は低い。今後の予約状況は宿泊、宴会共に良くない。今年の春からの勢いのなさが続いている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・10連休後に極端に暇になった。2～3か月前は朝夕にあった、営業の人の利用による忙しさが今はない。	
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・長い連休のため覚悟していたが、最悪だった前年5月よりも更に1割下がり、予想以上に悪かった。体調を崩している客も複数いる。また、婦人服の経営者の話では、客が買い控えているということである。
	×	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上は92%、宿泊人数は88%、宿泊単価は110%である。前年の大口団体客の穴埋めができず、団体客の前年比は76%である。14名以下の個人客は121%と増加できたので宿泊単価のアップにつながっている。
	×	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・例年であれば来客数がアップする時期にもかかわらず、新規来客数の低調さが全く改善されない。むしろ悪くなっている。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	-	-
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・政府が国土強じん化や防災、減災のために予算をつけ、地元においても今年度の公共事業予算が増え、その執行が行われている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からの情報では、個人客の問合せが少しずつ増えてきているということである。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・繊維業界は、衣料関係は相変わらず状況が悪いが、資材関係については非常に先まで受注が決まっている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現状の受注状況は変わらず推移している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注は総じて堅調に推移している。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・受注額が僅かに前年同月を上回っている。現時点では6月以降の受注見込みも前年並みの状況である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・4月の酒類の売上は前年比若干プラスとの報告である。

	金融業（融資担当）	取引先の様子	・当地は観光地としてのにぎわいもあり、小売業や観光関連サービス業は、10連休中の売上が好調に推移したと報告を受けている。一方、メーカーは長期休暇の影響と米中貿易摩擦の影響が重なり、売上にブレーキが掛かった取引先が多い。		
	司法書士	取引先の様子	・3月決算の法人の定時総会議事録の内容として、新規事業や役員増員といった事業拡大につながるものがない。		
	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・比較的堅調に推移していた受注面や販売面に陰りがみえる。一方でコストアップはとどまることなく、また、それを販売価格に転嫁できない状況も変わらないことから、収益性は悪化するばかりである。		
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・北米市場は前年と比べ伸びているが、国内と欧州市場の受注が伸びていない。		
	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・当社への受注量はさほど変わっていないが、営業からの情報では、一部大手や中小の店は、以前ほど活気がないようである。		
	税理士（所長）	取引先の様子	・5月は3月決算の報告をしている。そうしたなかで経営者と面談すると、3月までと4月以降では、4月以降の売上が減少している企業が多く見受けられる。また、今後も非常に不安であるという気持ちを持っている経営者が多い。		
	x	*	*	*	
雇用 関連 (北陸)		-	-	-	
		-	-	-	
		人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・求職者が求める希望が多様なため、有期雇用契約への申込みが少ない。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の新規求人数は前年同月比で1.7%の増加、前月比では0.9%の増加と、引き続き高い位置での横ばい状態にある。産業別では各月において波はあるものの、4月は運輸郵便業、卸売小売業、宿泊業、飲食サービス業、医療福祉業、サービス業で僅かな増加、学術研究、専門技術サービスで大きく増加している。一方、建設業、製造業は僅かに減少、生活関連サービス業、娯楽業で大きく減少という状況になっている。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・相談もなく、急な人員整理がみられるため、景気の不透明感が懸念される。	
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・求人に来訪する企業は相変わらず多く、人手不足への取組が目立つ反面、学生には厳しい選考が課され、現時点で内定を獲得できない学生が一定の割合で存在する。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人情報誌1回の発行につき50件ほど求人数が減っている。	
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新入社員が職場になじむ頃となり、企業は充足感があるためか、新たな求人数は以前より減少している。ただし、前から不足している建設や介護職などは、変わらず不足している。	
		x	-	-	-